

この学校にわたしたち

2023. 6. 26

N016

子どものための学校教育



つい先日、PTA奉仕作業で運動場の除草作業を行っていただいたにも関わらず、運動場の草が気になる程に生い茂ってきました。一言で“草”と言いましたが、草は時に“雑草”と呼ばれ、時に“野草”と呼ばれます。この両者は人が不要と感じたら、雑草といい、何も感じなければ野草というそうで

す。同じ草でも人の感情によって呼び方が違うようで、何とも失礼な気もします。もともと“雑”という文字は「色々なものが一緒に寄り合っていること」という意味で、“多様性”という言葉に置き換えることができるようです。学校では令和2年以降のコロナ禍の影響もあり、GIGAスクール構想事業の前倒しをし、タブレット端末を使った学習が急速に進みました。全国的にオンライン授業を行っている時期は、不登校の児童も参加でき、新たな可能性も見えるようになりました。学校教育（公教育）が始まったのは約150年前、均等な教育で富国強兵・殖産興業を目指し、一斉に授業をする大量生産型の教育は日本の教育水準を大幅に向上させたという大きな成果を残しました。しかし、教室でみんなと同じことをしなければならない、同じものを持たなければならないという同調圧力は今の時代に合わないことも多く、息苦しい人間関係やいじめ・不登校の原因の一つにもなっているという説もあります。学習指導要領では、個別の学習と協働的な学習を重要視しています。本校でも今年度、自分だけで学ぶ時間やと友だちと話し合い、考える時間を取り入れるなど、教師がしゃべる授業から見守る授業への転換を行っているところです。最近、「人は教えてもらえると思った時、“考えない”スイッチが入る」という言葉を聞きました。すべてが個別と言う訳にはいきませんし、急にすべてを転換すると混乱や戸惑いが起こってしまいます。デューイという教育学者は「学校と言うところは今すでにある社会に子どもを順応させる場所ではなく、これから向かうべき社会への発達の芽を宿した場所である」と述べています。私は「学校は自ら考え、成長する力を養い、未来を作っていくためにある」との視点に立ち、今後も学校運営を進めていきたいと思ひます。

校長先生、5限目さぼっていい？

授業中、子どもたちの学習の様子を見に、各教室を回っていますが、ある日、子どもから「校長先生、5限目さぼっていい？」と声をかけられました。「さぼりたいの？」と聞くと「うん、僕図工きらいなんさ。音楽が好きなんさ。1限目から5限目までずっと音楽がいいんさ。」と答えてくれました。きっと図工で紙を切ったり、折ったりするのが苦手で午前中から暗い気持ちになっていたのでしょう。「ずっと音楽ばかりだといいね」と言ってあげると嬉しそうにしていました。子どもは言葉に出す子もいれば出さない子もいますが、いろいろなことを考えて生活しているのだと気づかされました。